

膵臓がん早期発見推進ワーキンググループ

(令和5年度)

膵臓がん早期発見推進ワーキンググループ報告書

広島県地域保健対策協議会 膵臓がん早期発見推進ワーキンググループ

WG長 岡 志郎

I. はじめに

膵臓がんは、早期での自覚症状が無く早期発見が難しい。5年生存率が80%とされる早期がんが含まれるステージ0とIを合わせた発見割合は11.0%という低い水準が続いており、部位別死亡者数は男女とも増加傾向にある。

このため、膵臓がん早期発見・治療のための医療提供体制を構築することが急務であり、広島県がん対策推進計画（第3次）に基づき、膵臓がんの早期発見・治療のフローを本ワーキンググループにおいて検討してきた。

本ワーキングは令和2年8月19日から開催され、膵臓がんの早期発見・治療のためのフロー確定、ポスター等を活用した周知方法等をWGで議論の上、整理し、令和4年度に、Hi-PEACEプロジェクト（以下「プロジェクト」とする。）を開始した。令和5年度はプロジェクトの症例数を確認し、課題の共有や今後の調査についての質疑などを行った。

II. 開催状況

(1) 第1回（開催日：令和5年6月28日（水））
報告・協議内容

- ①現状について、プロジェクトにおける医療機関での症例数を紹介された。
- ②症例の登録方法について、質疑・意見交換を実施した。

(2) 第2回（開催日：令和6年2月29日（木））
報告、協議事項

①プロジェクトの実績について

令和5年8月から12月までのプロジェクト参加施設から提出された1,325件をまとめた調査票報告を行った。早期診断例といえる症例は17例（stage 0：3例、stage I：14例）であり、すい臓がん症例に占める割合は8%、プロジェクト全体に占める割合は1.3%であった。実績についての質疑・意見交換を実施した。

②今後について

- ・リスク因子のみ、あるいは膵腫瘍のない膵管拡張や嚢胞といったプロジェクトの中心となる集積を増やすことが重要。
- ・プロジェクト開始によって早期診断される膵臓癌が増加しているか否かを判断するため、プロジェクト開始前の各施設の膵癌患者数を今後調べることも検討する。

III. 令和5年度の成果

プロジェクト開始後、参加施設から提出された調査票をまとめ、現状について報告した。

報告内容についての質疑や意見交換を重ね、課題等についても情報共有を行った。

IV. 今後に向けて

今後は啓蒙活動を継続しつつ、プロジェクトを進め、活動成果については、紹介率や早期癌診断率等のデータを収集し、解析を行い、プロジェクトの成果を検証する。

広島県地域保健対策協議会 膵臓がん早期発見推進ワーキンググループ

WG長	岡 志郎	広島大学大学院医系科学研究科消化器内科学
委員	古川 善也	広島赤十字・原爆病院
	池本 珠莉	広島大学大学院医系科学研究科消化器内科学
	石井 康隆	広島大学大学院医系科学研究科消化器内科学
	植木 亨	福山市民病院
	岡崎 彰仁	東広島医療センター
	小川 恒由	福山市民病院
	栗原 啓介	市立三次中央病院
	佐々木民人	県立広島病院
	芹川 正浩	広島大学大学院医系科学研究科消化器内科学
	花田 敬士	JA尾道総合病院
	濱井千年世	広島市健康福祉局保健部健康推進課
	平尾 謙	広島市立広島市民病院
	藤川 光一	広島県医師会
	藤本 佳史	JA広島総合病院
	南 智之	広島赤十字・原爆病院
	三宅 規之	広島県医師会
	山口 厚	呉医療センター・中国がんセンター
	山根 一人	広島県健康福祉局健康づくり推進課
	行武 正伸	広島市立北部医療センター安佐市民病院